

しがの農 × 福通信

令和5年(2023年)9月第21号

発行者：滋賀県農政水産部みらいの農業振興課

8月10日に、今後の農福連携の取組の発展に役立てるため、先進事例視察会を開催しました。今回はその内容をご紹介します。

「しがの農×福ネットワーク」先進事例視察会

今回の視察先は、「ノウフク・アワード 2021」でグランプリを受賞された社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会 さんさん山城（就労継続支援B型）です。さんさん山城は、京都府京田辺市にて2011年に開所され、高齢化により担い手のいなかった15aの茶園を継承し、宇治茶の栽培を開始されました。その後、京都えびいも、田辺なす、万願寺とうがらし、京花菜など、障害者の手作業等により高品質な京の伝統野菜等を生産、これらを活用した加工食品の開発・製造、販売も行っておられます。障害者が中心となって運営するコミュニティカフェは、子どもから高齢者まで地域の様々な人が集う場となっています。現在、利用者は33名であり、一日約20人が作業をされています。今回の視察では、施設長の新免修さんと管理者の藤永実さんにご案内いただきました。

● 人手の多さを強みに自分たちで創造して販売する

さんさん山城では、農作業受託は行わず、自分たちで農産物の生産・加工・販売を行っておられます。

～生産部門～

高齢化等で耕作放棄地となった農地の担い手となり、高品質の農産物生産に取り組まれています。宇治茶の収穫作業は全て手摘みで行われ、昨年度にはJAの品評会の手摘みの部において京都府全体で1位を獲得されました。京都えびいもは、JAに出荷する際に水洗いはしてはならないという決まりがあり、一つ一つタオルを使って土落としをされています。「手摘み」や「タオルでの土落とし」の作業は、農業者にとっては手間と時間がかかる作業ですが、さんさん山城は人手が多いことを強みに、丁寧な手作業で品質の高さを維持されています。



～加工部門～

事業所内の加工場では、利用者によって、手摘みの宇治茶から製造した抹茶を使ったクッキーや大福が製造されています。また、捨ててしまう農業者がほとんどだという京都えびいもの規格外品は皮をむいて真空冷凍保存し、年間通してコミュニティカフェのランチに使われています。さらに、さんさん山城のゆず、レモン、番茶を使ったビール等、様々な加工品を製造されています。

～販売部門～

生産された野菜は主にJAに出荷されていますが、京都市内の高級ホテル、ミシュランの星付きレスト

ラン、京懐石の名店などにも食材を卸されています。また、コミュニティカフェを運営され、生産した食材で作ったランチを提供されたり、「さんさん土曜日」を毎月第一土曜日に開催し、加工品や野菜の販売もされています。カフェは平日で 60~80 人、土曜市の日は 120~150 人の来店があり、ほぼ毎日完売しているそうです。

● ノウフク JAS による商品ブランド化・JGAP で働きやすい職場づくり

ノウフク JAS は、2019 年 3 月末に農林水産省により制定された新たな農林規格（JAS）で、障害者が生産工程に携わった農産物を生産する事業者に対して認証されます。さんさん山城は 2019 年 11 月に第 1 号の認証を受けられました。これをきっかけに、ノウフク JAS の食材に興味を持たれた仲卸業者とつながりができ、現在ではその業者を通じて京都市内の創作フレンチ料理店やミシュランの星付きレストランに食材を卸すことができているそうです。



また、2020 年には JGAP（ジェイギャップ）認証も取得されました。JGAP は、食品安全・労働安全・環境保全・人権福祉など持続可能な農場経営への取り組みに関し、日本の標準的な農場にとって必要十分な内容を網羅した基準です。さんさん山城の作業場は、左の写真のように棚が整理整頓され、ネームシールを貼るなど、障害者含め作業員全員にとって安全で効率的な労働環境となっています。JGAP の基準をクリアすることは、障害者が働きやすい労働環境を形成することに役立つと感じられました。

● 地域の様々な人が集う場「コミュニティカフェ」

コミュニティカフェは、京都府からの「地域に開かれた場所をつくってほしい」という依頼をきっかけに始められました。運営は全てさんさん山城の利用者と職員が担っており、日替わりランチが提供されています。オーダーのやりとりが必要なく、お釣りのやりとりが複雑にならないよう一日一品、税込 500 円とし、利用者が働きやすいよう工夫されています。視察会のランチの際、所属や分野、世代等に関係なく人々が集い賑わっている様子が印象的で、カフェのお客さんと利用者が会話を交わし、自然にコミュニケーションの輪が広がっていました。



● 地域とのつながり

さんさん山城は、地域の様々な分野の団体とつながりを持って活動されています。

近くにある棚倉孫（たなくらひこ）神社では、2年に1度秋にある例祭で、たくさんの野菜を飾りつけた瑞饋神輿（ずいきみこし）が登場します。さんさん山城は、その神輿の屋根部分の飾りつけに使用されるえびいもの瑞饋を奉納されており、地域の伝統文化の継承に役立っておられます。

また、地域の児童養護施設で生活する子どもたちとの交流会も開催しておられます。交流会では、家庭環境が整っていない、虐待を受けたなど事情を抱える子どもたちに、わくわくする時間を過ごしてもらいたい、自分の将来のことを考えてもらいたいという思いで、さんさん山城とつながりのある企業等が協力し、プロのシェフによるコース料理の提供や企業による仕事紹介が行われるそうです。

他にも、大学と子ども食堂の連携で食材を提供されたり、土曜日で地域の高校生がさんさん山城産の

食材で商品を販売したりと、様々な形で地域の学生とつながりを持たれています。中には、大学の授業の空き時間にさんさん山城に来てボランティアに参加する学生もいるようで、さんさん山城が一つの居場所になっているそうです。

このように、さんさん山城は、地域に開かれた場であり、さんさん山城と地域の人、また地域の人同士がつながる場となっています。新免さんは、「人が人をつないでくれて、つながりの輪が広がっている」とおっしゃっていました。様々な人が集まりつなげる場所づくりを目指した結果、販路拡大やコラボ商品の開発など新たな取組へとつながっていくそうです。

● さんさん山城が目指す姿

新免さんは、「さんさん山城の目指す姿は、地域の人たちに“近所であってよかった”と思ってもらえるような事業所」とおっしゃっていました。そのために、利用者が支えられる立場だけではなく、地域を支える存在であり、障害者“でも”できるではなく、障害者“だから”できること、さんさん山城“だから”できる仕事を続けていきたいとお話くださいました。

視察終了後、班に分かれての意見交換を行い、参加者から出た視察会の感想や質問に対し、新免さんと藤永さんにご回答くださいました。意見交換会終了後、参加者同士や参加者と新免さん・藤永さんの間で交流が持たれていました。



活発に意見交換が行われました

<参加者の皆さんからの感想>

- ・農福連携だけではなく、ビジネスとして持続可能な農業を確立されている印象を持ちました。
- ・耕作放棄地を利用されており、農地の保全の面からも良い取り組みであると感じました。
- ・人のつながりが大切で、自然と人が集まる仕掛けを作られていることが勉強になりました。
- ・ネットワークづくりは利益ありきで考えるのではないという言葉が印象に残っています。



参加者の皆さん

<視察先お問い合わせ先>

● さんさん山城

住所：京都府京田辺市興戸小モ詰 18-1

TEL：0774-39-7113

ホームページはこちら⇒



● さんさん山城コミュニティカフェ

営業日：平日・第一土曜日（土曜日開催日）

営業時間：ランチ 11：30～完売次第終了

カフェ 11：00～15：00

※臨時休業等があるので営業日はホームページをご確認ください。

～滋賀県みらいの農業振興課からのお知らせ～

「しがの農×福ネットワーク」の会員（個人・団体等）を募集しています！⇒

